北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学 HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

『年報いわみざわ』とともに

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 榊原, 郁子 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9329

『年報いわみざわ』とともに

榊　原　郁　子

この原稿を書くために、「年報いわみざわ」の創刊号（1979）から最新の22号（2000）までを取り出し見直しました。

創刊号は、B-5版30ページの薄いものでしたが、年を追ってページ数も多くなり、３回発行された特定研究など研究費を得て行われた共同研究の報告書との合併号はぶ厚いものでした。19号（1997）からは、A-4版になり福山先生デザインのしゃれた白地の表紙になりました。22冊の「年報いわみざわ」を見ていると、この20余年間に、岩見沢校の〈初等教育・教師教育・社会教育〉研究が、広がり深まったことをしみじみと感じさせられます。

創刊号の巻頭では、岡路市郎学長が「小学校教員を主たる目的とする分校として」スタートする岩見沢校にたいして、大きな期待を表明されています。また、「年報いわみざわ」には「全教官の改革への熱い志が秘められていることを想い、心からなる敬意と祝意を表したい」と述べておられます。

渡部俊夫分校主事は、岩見沢分校のおかれた厳しい状況を見つめながらも、総合教育部の発足とその事業の一つである「年報いわみざわ」の創刊は、それまでの努力を具体化するものと位置づけておられます。編集委員長は、矢野晋平・前主事（数学）、編集委員には、総合教育部の専任として着任したばかりの渡辺守夫先生も加わっており、並々ならぬ意気込みが伝わってきます。座談会「これからの岩見沢校に望む」と「小学校教師による学生への実地指導について」（矢野晋平）、「実地指導導入による〈へき地・複式教育〉に対する授業改善の試み」（笹島勇治郎）の２論文が載っています。

嬉しいことに第２号には、私の「〈三体変化〉の授業書と授業記録による理科教材研究の授業」という小論が載っています。編集委員会に薦められて書いた４ページの短いものですが、最後の節には「〈小学校教員は、教える内容に関しては、専門家ではありえない〉ということについて」という長い小見出しがついています。それぞれの分野には専門家がいるので、教える内容に関して小学校の教師は、専門家ではありえないが、

「どんな面で、小学校教員の専門性があるのか、教員養成学部での専門教育の内容はどんなものであるべきなのかということが我々に問われていると思う。

先に述べた例でいうと、三体変化について教えようとする時、〈液体とは、水または、水に何かがとけたものだ〉という考えをもっている子どもがいることを知っていること、その考えを克服させる手だてを持っていることが、小学校教師の専門的知識であり、技術であると思う。」

と書いています。

1979年から小学校教員養成のみの分校になるのにともなって、小学校教員養成の中身について議論し、新しいカリキュラムを編成した直後のことですが、20年以上も前に「専門家としての小学校教員を育てる」ための具体的な提言をしていました。その後も、「年報いわみざわ」には、何度か初等教育・教師教育に関わる論文を掲載してもらいました。いろいろな分野の人が投稿する冊子であることに加え、論文の体裁や長さなども厳しく決められていなかったので、論文の内容やスタイルを自由に選ぶことができました。このことは、発表する場に制約の多い教科教育分野の研究にとってとてもありがたいことでした。

最後に、12月30日に急逝された森田茂之教授は、「年報いわみざわ」にも精力的に論文を発表してこられました。多数の共同執筆者の方達によって、森田さん達の研究がさらに発展し、その成果が引き続き本誌に発表されることを願っています。

岩見沢校で40年間、充実した教師生活を過ごすことができました。学生の皆さん、教職員の皆さん、学外の研究仲間、そして家族のおかげです。本当にありがとうございました。